平成31年
4月7日執行

栃木県議会議員選挙選挙公報

宇都宮市・
上三川町選挙区

栃木県選挙管理委員会

一緒につくろう“とちぎの未来” 中島（なかじま）ひろし

Make Our Future

自由民主党
中島（なかじま） ひろし
昭和44年1月29日生（50歳）

●昭和44年1月29日生まれ（50歳）砥上町在住。
●作新学院（幼・小・中等部）から宇都宮工業高校精密機械科、国際情報ビジネス専門学校 経理本科を卒業。
●参議院議員 岩崎純三事務所秘書として政治を学ぶ。
●平成15年初当選。
宇都宮市議会議員（2期8年）を勤める。
●平成23年 栃木県議会議員に初当選（11,320票）
●平成27年 栃木県議会議員2期目当選（12,641票）

主な役職
- 栃木県議会文教警察・県土整備・経済企業各委員会 委員長
- 自由民主党 栃木県支部連合会 青年局長
- 姿川第2小学校地域協議会 顧問
- 宮の原中学校地域協議会 顧問
- 宇都宮市消防団 姿川分団 部長
- 栃木県フロアボール連盟 会長

住んでよかったやっぱりとちぎ

決意1 ひとづくり
未来を担う子どもたちのために

子どもにとって家庭は最初の教育の場であり、親は最初の教育者。安心して子どもたちを慈しむことができる環境が「ひとづくり」の最初の一歩を支えます。そこで、幼児教育、義務教育、高等教育など年齢に応じた教育環境の充実、子どもたちの基礎学力の定着強化、健全な身体づくりの推進、「命の大切さ」「他を思いやる心」その中身の充実に努めます。

決意2 安心づくり
すべての人々のために

私たちが暮らす「今」を築いてこられた高齢者の皆さんが、安心して暮らせる地域づくりに努めます。介護施設への待機者解消をはじめ、介護サービスのさらなる充実を図り、ひとりでも安心して暮らせるネットワークを築きます。

障がいを持つ皆さんの生きがいづくりをはじめ、知的・身体・精神障がい等、それぞれの特性に応じた環境整備に努め、施設利用等、費用負担の軽減に努めます。

子どもの少ない今の時代に、不妊治療や出産費用の助成拡大や保育サービスの充実等、安心して出産・子育てができる環境づくりに努めます。

決意3 まちづくり
郷土のために

豊かな水と緑に囲まれ、農産物に恵まれた「とちぎ」。食は生きるための基本。人々の「命」を支える農業。『地産地消』の骨太なシステムづくりに努め、「とちぎ」ならではの魅力ある農業の推進に努めます。

「災害が少ない」これは「とちぎ」の大きな魅力です。暮らしやすく、企業活動のしやすい「とちぎ」の魅力を活かし、企業誘致を推進し、雇用の創出を図り、地元経済の活性化を目指します。

日光世界遺産をはじめ、多くの観光資源に恵まれた「とちぎ」。これらのネットワーク化を図り、「観光都市とちぎ」を推進します。

決意4 こころづくり
限られた資源と自然を守るために

「ゴミをまたいで通らない」「ムダなく調理、残さず食べる」「作ってくれた人への感謝の気持ちを忘れない」、こんな小さな心がけから環境保護が始まります。

ごみ減量化を推進、その処理費用の軽減に努め、地域ぐるみの自然愛護活動の推進など循環型社会の形成に努めます。まずは、この素晴らしいふるさと「とちぎ」の環境を守り、限りある資源と恵まれた自然環境の保護に努めます。

LRT反対！完全無所属　6歳と4歳の子育て奮闘中！だから絶対に「子どもにツケをまわさない！」

無所属
西（にし） 弘次（ひろし）
一九六九（昭和44）年三月三一日生（50歳）

今回の選挙から限定的ながら選挙中の政策チラシの配布が認められるようになりました。
小さな子を持つ親の一人として、以前から音の問題で躊躇し悩んでいた「選挙カー」を自粛してみます。

民主主義の根幹である選挙の公約が曖昧でどうとでも取れる文言だったり、そもそも公約を守ろうとしない政治家や政党が溢れかえっています。宇都宮市議会では旧民主党系会派が説明責任も果たさないまま突如LRT賛成！に豹変し、市民を呆れさせたのは記憶にあるかと思います。

栃木県議会は自民・公明・（旧）民主・（旧）みんな、によるオール与党で、知事には何でも賛成ばかりの議員が本当に必要でしょうか。通年議会で有りながら、知事の専決処分がしょっちゅう行われるというのは議会が機能不全である証拠です。

現在の日本では、全ての既存国政政党が増税とバラマキの社会・共産主義的経済政策を指向し、ますます息苦しい社会を築いています。そのコップの中で選ぶのなら確かに誰がなっても同じでしょう。有権者に選択肢はほぼ有りません。

だからといって、選挙行くのをやめて一票のポイ捨てしますか？頼まれた政策も言動も仕事ぶりも見極めないで白紙委任の票を投じる。それは大人の責任と言えるのでしょうか？

現在の高齢化・少子化社会の到来と危険性は、50歳の私の中学校の教科書にも載っていました。そこから36年、政治は何をしてきたのでしょう。そしてそんな政治と政治家を許してきたのは、我々有権者の一票。私たちにこそ責任があるのですよ。他人のせいにするのはもう止めましょうよ。

私は、今選挙権を持たない子どもや孫の世代にどんな社会を残してバトンを渡すのか、大人として親として逃げずに真剣に向き合うべき時だと考えています。

子どもにツケをまわさない！ために。

私はぶれずに、古典的自由主義を標榜し、完全無所属を貫きます。

西弘次の覚悟と、県民の皆さんとの「8つの約束」

◇子どもにツケをまわさないよう、増税と安易な借金は許しません！
◇民意の存在しないLRT導入やその補助金は許しません！
◇県の事業数と職員数の半減を目指し、総数増加は許しません！
◇議会経費視の知事の専決処分は許しません！
◇議員給与の二重取りである3千円の日当（費用弁償）は受け取りません！
◇当選後の議員報酬の引きよげは許しません！受け取りません！
◇企業や組織・団体からの献金は受け取りません！
◇無所属で当選した後に既存政党や政党会派には入りません！

この8つの約束が自ら守れない場合は、辞任します。

持続可能な県政にむけた「8つの提案」

○「子どもにツケをまわさない自治体経営」→少子化高齢化の進む時代だからこそ、借金と増税に頼らない健全な均衡財政を実現しよう！
○「豊かな公共！小さな役所！」→県の全ての事業を棚卸しし、廃止と民間への移管をすすめ、質の高い民間やNPOの力が発揮できるスリムな栃木県を！
○「栄市学座」→様々な規制による参入障壁、既得権益となっている各種補助金を見直し、起業や新規参入がしやすい、中小企業が元気な栃木県を目指す！
○「真の議会改革」→議会への県民参加（本会議のフリースピーチ制度、予算編成過程の公開・県民意見聞取）と常設の住民投票条例を！
○「LRTや旧態依然のハコモノ政治をストップ」→公共施設の維持管理コストは建設費の約3倍！施設の大幅削減が必須の時代に、安易な新設は許さない！
○「反原発」→世の中に完璧なものなんて存在しません。人知を超えてコントロールできない大きなリスクは、再生可能エネルギーを推進！
○「多様な子育て環境に対応できる柔軟さ」→待機児童ゼロは勿論、出産から教育まで含めた子育て環境にご行政の柔軟な対応支援が必須です！
○「動物の殺処分ゼロ」→小さな命を大切に出来ない社会は、人の命も大切にすることは出来ません。動物と共生できる栃木県を目指します！

ぶれずに挑戦し続ける西さんを、私たちも応援します！

●内山優　JTR日本税制改革協議会 会長●吉田寛　千葉商科大学院教授●松本武洋　埼玉県和光市長●中村健　愛知県西尾市長●伊藤徳宇　三重県桑名市長●鈴木健一　三重県伊勢市長

納税者保護誓約書に署名しました！
村田稔雄先生（元横浜商科大学学長／故ミーゼスの日本人唯一の弟子）と福嶋浩彦先生（元我孫子市長／元消費者庁長官）に立会人となって頂きました！

西弘次事務所
宇都宮市今泉 4−14−5
Web https://nishi24.jimdo.com

子どもにツケをまわさない！
議会 自治体議会改革フォーラム

【PROFILE】
昭和44年3月兵庫県明石市生まれの50歳
●宇都宮市立鎌小学校、陽北中学校、作新学院高等部を経て都内の大学卒業。百貨店勤務、紳士服メーカー勤務、市民団体職員、フリーのイベントディレクターなどを経て現在は民間シンクタンク「自治体政治総合研究所」代表●妻と6歳と4歳の子の4人家族●チャーハンとお茶漬けとジンジャエールは毎日でも嬉しいくらい大好き

どんな時も あなたのために あなたとともに 山田（やまだ）みやこ 生活者の声を県政に届けます

無所属
山田（やまだ）みやこ
昭和三〇年八月十一日生（六十三歳）

山田みやこ プロフィール

1955年 栃木県鹿沼市（旧粟野町）生まれ
1990年 生活クラブ生協栃木 理事
2001年 栃木県議会議員補欠選挙初当選
2003年 栃木県議会議員選挙当選 2期目
2007年 栃木県議会議員選挙当選 3期目
2011年 栃木県議会議員選挙落選
2012年 一般社団法人
社会的包摂サポートセンターとちぎ
コーディネーターとして活動
2015年 栃木県議会議員選挙当選 4期目
栃木県地方議会女性議員連盟会長

山田みやこ事務所
栃木県宇都宮市上大曽町356−1
TEL/FAX 028-624-7385

皆様のご意見をお待ちしております
ぜひお寄せ下さい

山田みやこ 公式ホームページ https://yamadamiyako.jp
山田みやこ と市民の会 https://www.facebook.com/yamadashimin/

山田みやこが目指す栃木

安全な食で健康に育む環境
- 次世代に生物多様性と自然環境を残す
- 水の重要性を再認識し自然環境を守る
- 農薬を使わない有機農業への積極的な転換
- 遺伝子組み換え作物はNO

若者の孤立
- 社会生活に適応できる居場所の整備
- 希望を取り戻す親と子への継続的な支援

女性の自立支援
- 相談支援の専門職としての人材育成
- 心のケアのできるカウンセリングの充実化
- 自立のためのきめ細やかな継続的な支援

子どもの貧困
- 学校以外の安心できる学びの場の開設
- 適応指導教室の在り方と見直し
- フリースクールの充実と支援

学校以外の学びの場の確保
- 安心できる「居場所」の設置
- 「子ども食堂」の運営
- フードバンクの更なる充実化

女性議員の進出・増加
- 女性県議会議員　12%(50人中6人)
- 女性市町議会議員　8.4%(平成27年度総務省調べ)
- 生活現場の経験や知恵を持つ女性が30%を占め活躍できる議会を目指す

様々な困難を抱え支援が必要な人達や、労力を惜しまず彼らを支える人たちの存在を目の当たりにし、学ぶことがたくさんありました。その中で、本人の責任ということだけでは片づけられない、深刻かつ複雑化する子ども・若者・女性に関する問題があります。それらは「貧困」「虐待」「DV」「性暴力」「ひきこもり」などです。このような状況に置かれた人達には、将来の希望や夢が持てません。
さらに、自分たちの置かれた状況を伝えるSOSの声さえ出せず、たとえ発したとしても多くの人達に届いていないのが現状です。
今こそ、この問題の解決に真剣に取り組み、全ての県民が「住んでいて良かった」と思える未来ある県にすることが私の使命だと強く考えます。

（この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま写真製版によって印刷したものです。　なお、掲載順はくじにより決定しています。）